

2026年3月期 第3四半期
決算補足資料
(市場環境)



サンケン電気株式会社

2026年2月9日

業績概況

(億円)	2025年3月期				2026年3月期				前年比		通期予想 金額
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	1Q	2Q	3Q	3Q累計	金額	%	
売上高	498	230	233	961	222	188	181	592	—	—	788
サンケンコア	224	224	216	663	210	185	181	576	-87	-13%	772
その他	275	6	17	298	12	3	0	16	—	—	15
営業利益	-46	-10	2	-54	-4	-5	-8	-17	—	—	-60
サンケンコア	3	-1	4	5	-3	-4	-8	-15	-20	—	-58
連結調整他	-49	-9	-1	-60	-1	-1	0	-2	—	—	-2
持分法投資/LPS運用損益	—	-20	18	-2	-1	9	-10	-2	—	—	—
経常利益	-57	-86	34	-108	-9	1	-22	-30	—	—	-83
特別損益	15	634	6	654	3	-3	4	3	—	—	—
当期純利益	-27	507	32	512	-9	-5	-21	-35	—	—	-97
一株当たり当期純利益 (円)				2,119.06				-167.88	—	—	-452.29

為替レート 累計平均 155.87 152.79 152.65 144.62 146.04 148.73
(Yen/USD) 3か月平均 155.87 149.70 152.38 144.62 147.47 154.10

※2025年3月期2Qよりアレグロは連結対象外のため前年比の増減はサンケンコアのみ記載

サンケン
コア

<3Q(10-12月)実績 11月業績予想比>

売上 為替影響 +4億円
営業利益 為替影響 +2億円、後工程の生産再編に伴う作り込み影響 +3億円

<4Q 見通し> ※11月業績予想 変更なし

売上 自動車、白物家電市場の季節性も加味し、3Q比で為替影響も含め微増
営業利益 前工程・後工程の生産調整により3Q比で減益の計画

<3Q(累計) 実績 営業外損益以下 主な変動要素(億円)>

※勘定科目に関わらず、金額はプラス・マイナスで表示

営業外損益
・持分法投資/LPS運用損益 : - 2 (アレグロ当期純利益の持分損失 -10、LPS運用益+8)

特別利益
・為替差損 : - 11

・固定資産売却益 : + 12 (旧ユニット事業撤退に伴うインドネシア工場売却)

・持分変動利益 : + 19 (アレグロ株式報酬計上に伴う持分変動影響)

特別損失
・特別退職金 : - 24 (石川サンケン -21、サンケンインドネシア -3)

法人税等

: - 8

連結

市場環境

～マクロ経済の動向～

- 世界経済の不透明感が継続、特に中国経済の成長鈍化は投資・消費活動に影響
- 米欧におけるBEV支援政策の転換を機に、EVキャズムが世界的に波及
- 「米中摩擦」をトリガーに、中国における自国製半導体による地産地消化が急速に進展
- 新興国の経済動向は低調も、インドは上向き

白物家電市場

- 中国エアコンの輸出モデル向け部品取り込みがやや前倒しでスタート、CY26生産では、中容量廉価機が計画の柱となる模様
- 韓国顧客のCY26生産は、前年比で伸長計画エアコン向けIPMの採用により純増見込み
- インド向けにIPM出荷開始、今後純増見込み
- 欧州顧客で洗濯機向けIPM採用、今後エアコンへ展開 欧米でのデザインイン活動が進行中

自動車市場

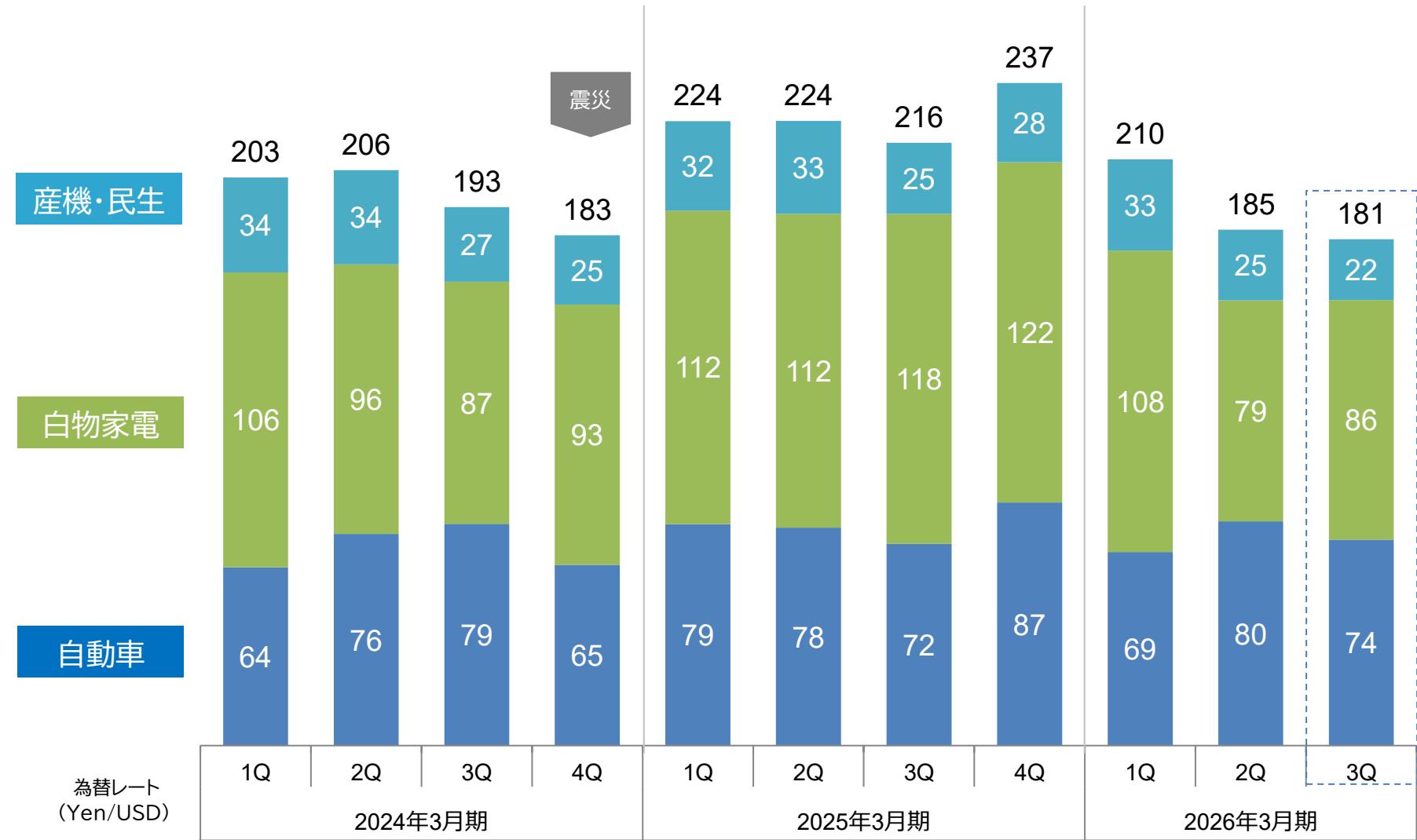
- CY26 OEM生産台数 95M台
→足元EVキャズムでHEV/ICE向けが堅調
- EVトラクションモータ用パワーモジュールは、複数Tier1への拡販及び他用途展開スタート
- 当社IPM搭載の高電圧補機システムは、BEV複数モデルへの展開が進み、需要増見込み
- FCV燃料電池冷却用の電動ウォーターポンプ駆動に1200V高耐圧IPMが採用(新領域)

産機/民生市場

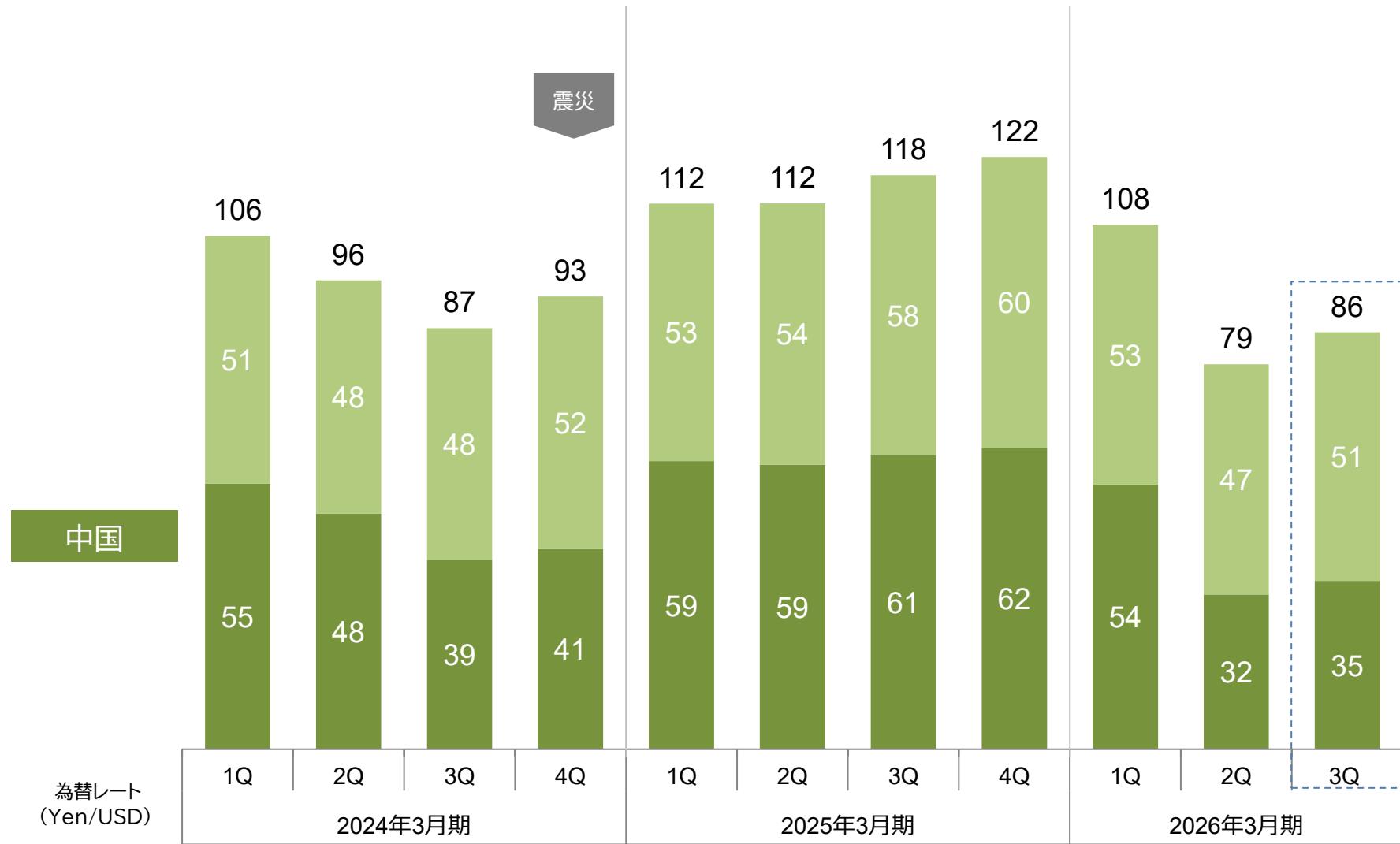
- グローバルのTV需要及びFA向けパワー半導体は横ばい基調で変化なし
- データセンターのチラー冷却水循環ポンプ向けに、BEV用高耐圧パワーモジュールを応用展開し、海外顧客において評価中
- 業務用空調向けに、1200V高耐圧IPMを拡販予定

市場別売上高

(億円)



(億円)



引き続き健全な財務体質を維持

2024年3月末

2025年3月末

2025年12月末

自己資本比率

31.1%

56.9%

51.3%

D/Eレシオ

1.18x

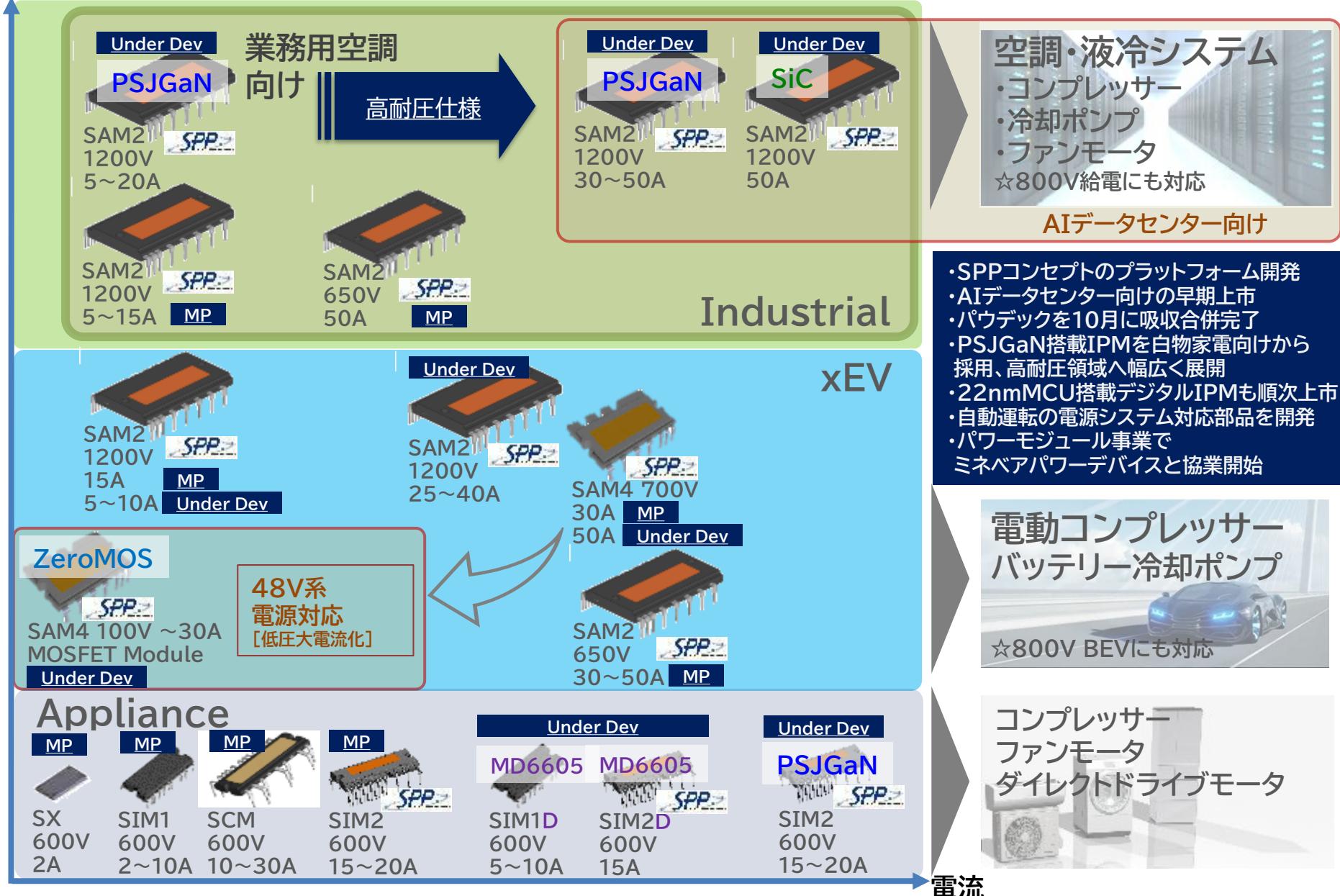
0.43x

0.63x

IPMラインナップと応用展開

(技術の応用展開については、『サンケン技報』を参照ください)

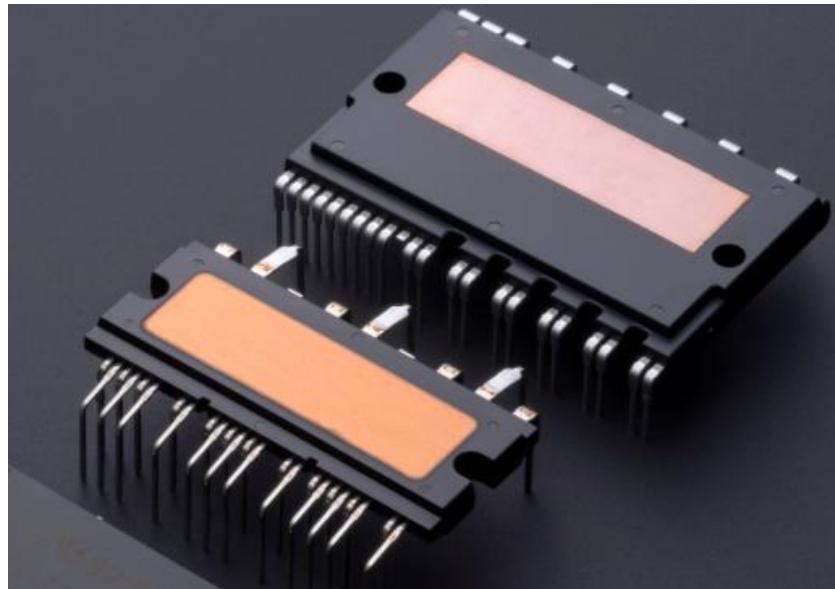
電圧



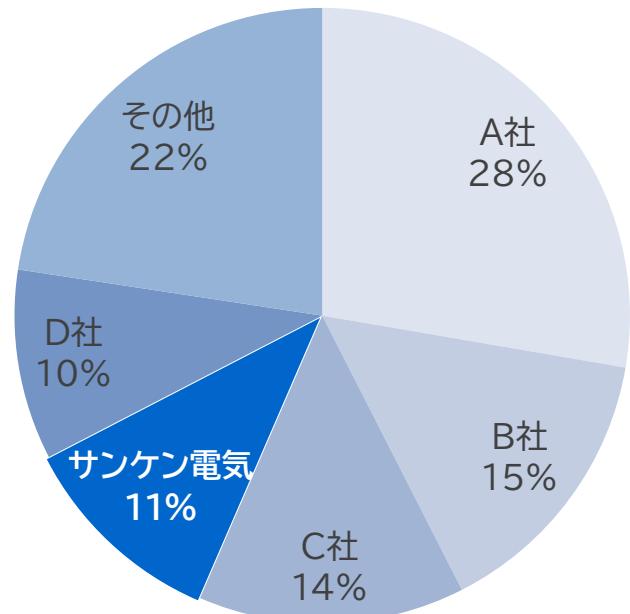
パワー半導体市場でグローバルの地位を確立

IPM(インテリジェント・パワーモジュール)

世界 **4** 位
国内 **3** 位



IPMマーケットシェア



富士経済「2025年版 次世代パワーデバイス&パワエレ関連機器市場の現状と将来展望」より

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社及び当社グループに関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1)経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2)為替レートの変動、(3)技術進化への追随の成否、(4)原材料の高騰あるいは調達難、(5)各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6)偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。